【技術・家庭（技術分野）・中3・「D 情報の技術」】①

育成を目指す資質・能力（本時５／８のねらい）

双方向性のプログラムを使用した後の振り返りをもとに、SNS上の問題が起こらないようにするためのプログラムの仕組み・構成を考え、修正を繰り返すことで課題を解決することができるようにする。

ICT活用のポイント

【授業の視点】双方向性プログラムにおいて、実生活と関連付けた活用の振り返りをもとにしたプログラム制作を行うことを通して、効果的なプログラムを構想したり、課題解決をしたりすることができるようになるであろう

【つかむ】
前時の振り返りを行い、本時で解決すべき課題を確認する。

【追究する】
プログラムの編集をする。

【追究する】
プログラムを共有する。

【まとめる】
本時の学習の振り返りをする。

事例の概要

○ウェブブラウザで動作するプログラミングソフトを活用し、双方向性プログラムの学習を行う。本時は、生徒が前時までに作成してきたプログラムの振り返りをもとに、実生活での経験から生徒たちに課題意識を持たせ、グループごとにネットワーク上の課題を設定し、解決のためのプログラムを作成する。

※使用したソフト：5つのレッスンで構成されており、全レッスンを通して、チャットアプリを制作する。

○【つかむ】場面においては、グループごとに作成したチャットアプリの動作を確認するとともに、課題となる部分の確認を行う。

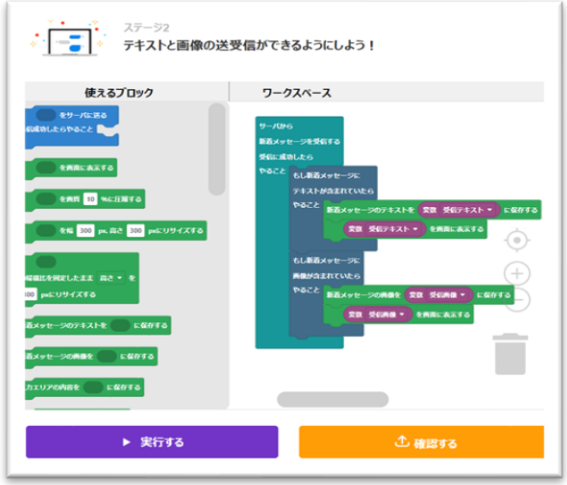
○【追究する】場面では、各自がタブレット端末を活用してプログラムの改善・修正を行う。

○課題に対応したプログラムが作成できているチームのプログラムを大型提示装置や学習支援ソフトを用いて紹介し共有を図る。また、他チームのプログラムを使用させ、使用した感想やアドバイス等を意見交流する。

○【まとめる】場面では、活動を次回以降のプログラム作成に生かしていくために、ワークシートや学習支援ソフトに活動の成果・課題を記録し、蓄積させていく。

【技術・家庭（技術分野）・中3・「D 情報の技術」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】

○プログラムの作成においては、各自がタブレット端末を活用して改善・修正を行うことで、プログラム作成の知識・技能を身につけさせることができる。
○作成したプログラムを共有する場面においては、大型提示装置や学習支援ソフトを用いて紹介することで、視覚的に捉えやすくしている。
○まとめの場面でワークシートだけでなく、学習支援ソフトに活動の成果・課題を記録し、蓄積させていくことで、あとで自身の活動の振り返りが行いやすいようにしている。
○一人一台のタブレット端末を使った活動を行うにあたり、本時の活動についてめあての立てる段階からやるべきことを明確に示していたため、生徒が主体的に活動に取り組むことができていた。
○作成したプログラムについて説明する場面では、タブレット端末を用いて図示しながら説明をするなどのプレゼンテーション能力の向上にもつながっていた。
○プログラムの思考過程を記録しておくために、ワークシートや学習支援ソフトを活用することで、評価の際の参考資料とすることができる。

【活用したソフトや機能】ウェブブラウザ（プログラミング）、学習支援ソフト、大型提示装置